

各関係機関団体の長
各病虫害防除員
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成21年度病虫害発生予報第11号(2月)について

このことについて、病虫害発生予報第11号を発表したので送付します。

予報第11号

イチゴうどんこ病、灰色かび病の防除を徹底しましょう!

イチゴのうどんこ病の発生が増加しています。発生ほ場では、気温の上昇とともに多発する可能性が高いので、防除を徹底しましょう。また、現在発生が認められない場合でも、発生前からの予防散布に努めましょう。

灰色かび病は、比較的低温で多湿の場合に果実等が結露し発生が多くなるので、送風機を作動させるなどして、湿度の低下を図りましょう。

罹病した果実や葉は除去し、ほ場外へ持ち出し処分しましょう。



イチゴうどんこ病



イチゴ灰色かび病

< 予想される向こう1か月の天候 >

これまで気温の低い状態が続いていましたが、期間前半は気温が高くなる見込みです。

天気は、平年に比べて曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。

向こう1か月の気温は高いでしょう。降水量は少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。

週別の気温は、1週目、2週目とも高く、3～4週目は平年並でしょう。

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	40	30	30
日照時間	20	40	40

(福岡管区気象台 平成22年1月15日発表抜粋)

向こう1か月間の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)	
		平年比	平年比	前年比
冬春イチゴ	うどんこ病 灰色かび病 ハダニ類	並 少 やや少	並 やや少 並	やや多 やや少 並
冬春ナス	すすかび病	並	並	並
冬春キュウリ	べと病 褐斑病	少 並	やや少 並	やや少 やや少
野菜共通	ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	並 やや多	やや多 やや多	やや多 やや多

作物別発生予報

注：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（ + ）は発生を助長する要因、（ - ）は発生を抑制する要因、（ ± ）は発生を助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示す。

予報の根拠に用いた1月3半旬の平年値・前年値は、昨年度までの1月2半旬の数値を使用。

【野菜】

1 イチゴうどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 1月3半旬調査の結果、発生量は平年並であった（±）。

発病株率 1.2%（平年 1.3%、前年 0.4%）

発病果率 0.1%（平年 0.2%、前年 0.0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少ないとされている（+）。

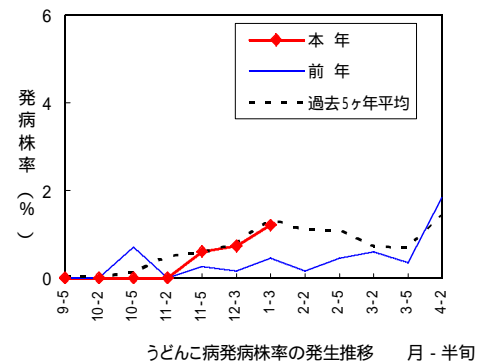
(3) 防除上の注意

ア 早期発見に努め、罹病葉、罹病果は見つけ次第処分する。

イ すでに発生しているほ場では、温度の上昇とともに多発することが予想されるので、この時期の防除を徹底する。

ウハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

エ 発生後の散布は効果が低いので、発生前から予防散布に努める。薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をロ - テ - ション散布する。



2 イチゴ灰色かび病

(1) 予報の内容

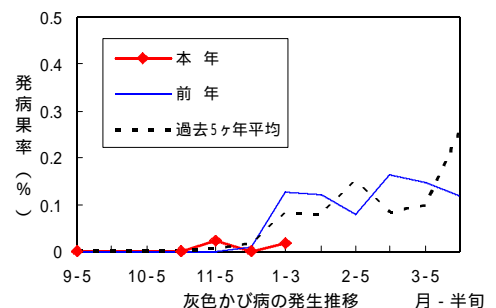
発生量：平年・前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 1月3半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（-）。

発病果率 0.0%（平年 1.0%、前年 1.0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少ないとされている（±）。



(3) 防除上の注意

- ア 早期発見に努め、罹病葉や罹病果は見つけ次第処分する。
- イハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。
- ウ 老化葉は随時除去し、株間の通風、採光を図る。
- エ 農薬の散布は晴天の日中に行い、十分に換気して夕方密閉するまでに薬液が乾くようにする。

3 イチゴのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

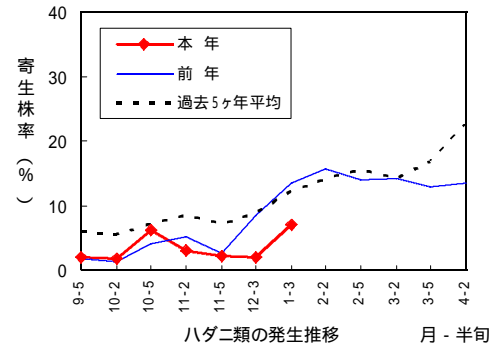
ア 1月3半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(-)。

寄生株率 6.9%(平年 12.2%、前年 13.4%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少ないとされている(+)

(3) 防除上の注意

- ア 本種は、はじめスポット的に発生し、地面に接した下位葉ほど寄生が多いので、葉かき等の管理作業時によく観察し、発生を認めたら早めに防除を行う。
- イ 防除は摘葉後に行い、葉裏に薬剤が十分かかるようにする。
- ウ 摘葉や除去した雑草は、ほ場内に放置せず、ビニル袋に入れ密閉して処分する。
- エ カブリダニ類を放飼しているほ場では、天敵に対して影響の少ない殺ダニ剤を散布する。



4 ナスすすかび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

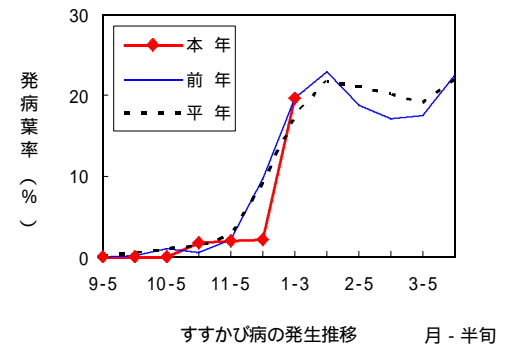
ア 1月3半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病葉率 19.6%(平年17.3%、前年19.7%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少ないとされている(+)

(3) 防除上の注意

- ア 発病葉は早めに除去し、ほ場外に処分する。
- イ ハウスの換気を行い、多湿にならないように管理する。
- ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



5 キュウリべと病

(1) 予報の内容

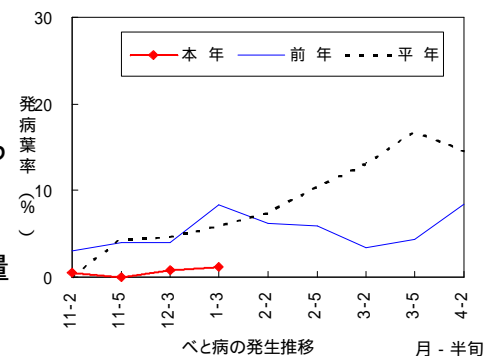
発生量：平年・前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 1月3半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)。

発病葉率 1.1%(平年5.9%、前年 8.3%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少ないとされている(±)。



(3) 防除上の注意

ア 草勢が低下すると発病が助長されるので、適正な肥培管理を行う。

イ ハウスの換気を行い、多湿にならないよう管理する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

6 キュウリ褐斑病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 1月3半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

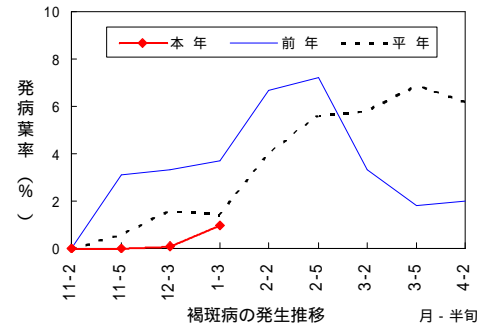
発病葉率 1.0%(平年 1.4%、前年 3.7%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少ないとされている(+)

(3) 防除上の注意

ア 発病葉はできる限り除去するとともに、葉の裏側にも十分かかるよう丁寧に散布する。

イ ハウスの換気を行い、多湿にならないよう管理する。



7 ミナミキイロアザミウマ(野菜共通)

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 1月3半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

ナス寄生葉率 8.8%(平年 5.9%、前年 5.2%)

ナス被害果率 0.4%(平年 0.5%、前年 0%)

わらび寄生葉率 0.7%(平年 0.3%、前年 0.1%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少ないとされている(+)

(3) 防除上の注意

ア 本種は、キュウリ黄化えそ病(MYSV)の媒介虫である。このウイルスはアザミウマ類が低密度でも伝染し蔓延するので、早期発見に努め、防除を徹底する。

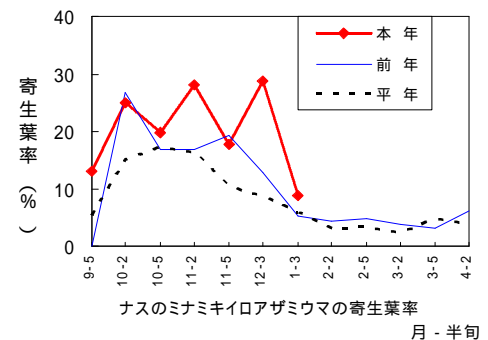
イ 葉裏への寄生が多いので、散布むらがないよう丁寧に散布する。また、多発した場合は、約1週間後にもう一度薬剤散布を行う。

ウ ほ場内の雑草を徹底して除去し、害虫の増殖源を絶つ。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤感受性検定結果については、「病害虫・雑草防除の手引き」を参照する。

(ホームページアドレス

<http://www.jpnpn.ne.jp/fukuoka/tebiki/pe-ji/yasai/yasai-mokuji.html>)



8 コナジラミ類（野菜共通）

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

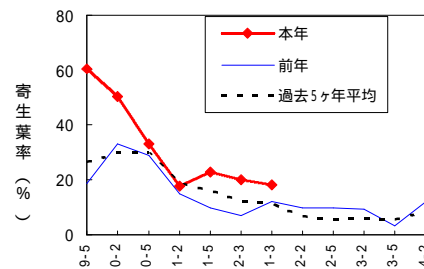
(2) 予報の根拠

ア 1月3半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(+)。

ナス寄生葉率 18.0% (平年11.0%、前年12.1%)

キュウリ寄生葉率 0.4% (平年 0.4% 前年 0.1%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少ないとされている(+)



ナスのコナジラミ類の発生推移 月・半旬

(3) 防除上の注意

ア タバココナジラミ類はトマト黄化葉巻病(TYLCV)やキュウリ退緑黄化病(CCYV)の媒介虫であるので、早期発見に努め、防除を徹底する。

イ 幼虫や蛹が寄生している下位葉を除去し、散布むらがないように丁寧に散布する。

ウ ほ場内の雑草の除去を徹底し、害虫の増殖源を絶つ。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤感受性検定結果については、「病害虫・雑草防除の手引き」を参照する。

(ホームページアドレス

<http://www.jpnp.ne.jp/fukuoka/tebiki/pe-ji/yasai/yasai-mokuji.html>)

【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
冬春ナス うどんこ病 灰色かび病	少 やや少	やや少 並	やや少 並	・換気を行い湿度の低下を図る。 ・罹病葉や罹病果は見つけ次第除去する。
冬春トマト 灰色かび病 葉かび病	並 少	並 やや少	並 やや少	・開花後の萎れた花弁は、伝染源となるので取り除く。 ・換気を行い湿度の低下を図る。
冬春キュウリ うどんこ病 灰色かび病	並 並	並 並	並 並	・換気を行い湿度の低下を図る。 ・罹病果は見つけ次第除去する。
冬キャベツ 菌核病 黒腐病 コナガ	並 少 並	並 やや少 並	やや多 並 並	・罹病株は見つけ次第処分する。形成された菌核は、ほ場へ残さないよう、ほ場衛生に努める。 ・初期防除を徹底する。 ・初期防除を徹底する。
冬レタス 灰色かび病 菌核病 腐敗病	やや少 並 やや多	やや少 並 やや多	- - -	・トンネル内が高温多湿にならないように換気を行う。 ・罹病株は見つけ次第処分する。形成された菌核は、ほ場へ残さないよう、ほ場衛生に努める。 ・罹病株は見つけ次第処分する。トンネル内が高温、多湿にならないように換気を行う。

農薬の適正使用、飛散防止対策の徹底を！

全ての農薬の残留基準が農作物毎に設定され、基準値を超えた食品（農産物）は販売が禁止されます。

農薬の使用に当たっては、ラベルをよく確認し農薬の使用基準を厳守するとともに周辺に飛散（ドリフト）しないよう対策を講ずるなど十分に注意を払って下さい。

1 農薬適正使用の徹底

適用作物、使用量、濃度、使用時期、使用回数など、ラベルを確認し使用基準を遵守する。

噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

他作物が隣接している場合は、なるべく双方に登録がある農薬を使用する。

2 飛散防止対策の徹底

風、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

3 防除履歴の記帳

薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、散布月日、薬剤名、使用濃度、散布量等を正確に記帳する。

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jpjn.ne.jp/fukuoka>
電子メール kfok0301@sp.jpjn.ne.jp